

骨粗鬆症薬などによる顎骨壊死について

近

年、骨粗鬆症で骨折予防に
使われる薬やがんの骨転
移を防ぐための薬に、顎の骨が腐
つてしまつたという副作用があるこ
とが話題になっていきます。ビスフォ
スフォネート（BP）製剤と呼ばれ
る薬で、骨粗鬆症では骨折予防に
効果があるため日本では大変多く
の方に飲まれている薬です。また、
乳がんなどの骨転移予防にも効果
があり、注射剤として定期的に病
院で投与されています。専門的に
は、BP製剤のこの副作用をビス
フォスフォネート関連顎骨壊死（B
RONJ＝ブロンジエイ）と呼んで
います。

この薬は投与されてすぐに副作
用が現れるのではなく、多くは3
年以上の長期投与で顎の骨に変
化が出ます。発生頻度は、骨粗鬆
症の薬で3000人に1人程度、
がん転移予防の薬で10人に1人程
度です。薬の服用者の増加、服用
期間の長期化に伴い最近増加傾
向にあります。

BRONJの初めの症状は様々
で、顎の骨が露出したり、顎の下の
皮膚が腫れたり、歯と関係のない
歯ぐきが腫れて膿が出たりします。
痛みが出ることもあります。全く
ないこともあり、気づくのが遅れる
ことがあります。長く骨粗鬆症の
薬を飲んでいる人は、歯磨きの時
口の中をのぞいてセルフチェックす

るといいでしょう。また、口の中を
きれいにしておくことで発症しづら
いことから、定期的な歯医者さんでの
口腔ケアをおすすめします。拔牙な
ど、口の中での外科処置を受けるこ
とがきっかけで発症することも多く、
現在日本口腔外科学会のガイドラ
インでは、3か月休薬してから拔牙
することになっています。外科処置
を受ける際には、必ず歯医者さんに
骨粗鬆症の薬を飲んでいることを
伝えてください。さらに、これから
投与を受ける予定の方の場合には、
投与前に徹底した歯科治療を受け
てください。

こうしたBRONJになると、な
かなか治すのは容易ではありません。
抗生物質などの薬だけで治す
ことは困難で、炎症部位を頻回に
洗浄して腐った骨を分離させて除
去したり、壊死してしまった骨の部
分を切断する手術をしたりします。
BP製剤にはこのような副作用
がありますが、お医者さんはメリ
ットよりデメリットの方が大きいと判
断した場合に薬を処方しています。
がん患者さんの場合には、生存率の
上昇という大きなメリットがありま
すので、主治医から投与を勧められ
た際はお受けしてください。骨粗鬆
症で飲み薬の処方を受ける場合に
は、BRONJを過度に恐れること
なく、主治医の先生からよく説明
を聞いた上で服用してください。

●次回掲載予定日は4月18日です。

